

短歌な大忘年会 2020

in the zine

うたげ

*Free
paper*

ぎゅうひ

大学前駅前ロータリー前のコンビニ前街路樹前で待つ
首ぎゅつとすくめてやってきた君の求肥みたいな質感の頬
目薬を点す時君の唇が半分開いて見とれてしまう
年末の年末らしい喧騒を行けば手と手がさらりと触れる
君になら意地悪されていいよって意地悪なこと言ってくる君
そんな息どこで覚えてきたの、ねえ、ぼくはくらぐらしてしまっよ、ねえ
年末の年末らしい喧騒が聞こえないほど僕たちだった

あ の 井
@_anoi_

持ち寄りの
お品

デカイコーラ

星見オフ会

星を見る場面があった物語2泊3日の聖地巡礼
作品のファンが集まる賑やかな貸別荘の広い厨房
食事以外みんなマスクをしても笑顔なことは伝わってくる
言葉より望遠鏡で本物のオリオン大星雲を見せたい
満天の星に圧倒されている彼女に星を伝えたかった
翌朝に「正直よくわからなかった」なんて言わせてしまった後悔
今回で最後のつもりだったけど心残りが「次」を求める

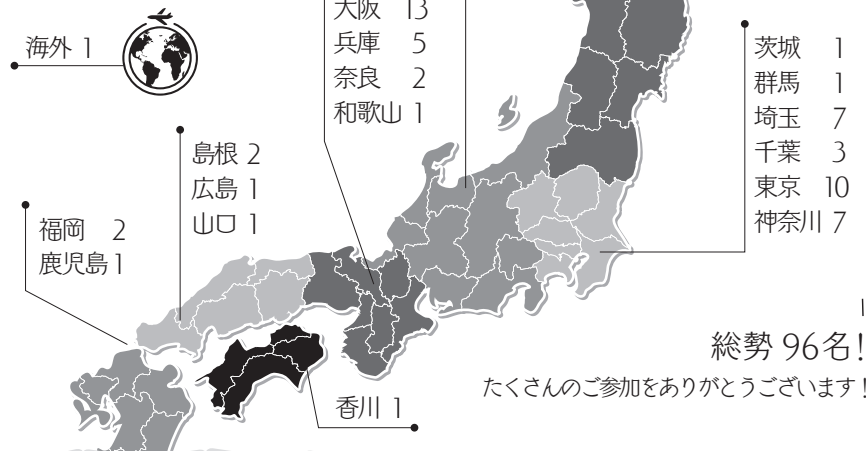
あ さ く う
麻 倉 ゆ え
@AsakuraYue

持ち寄りの
お品

煎茶

本日は どちらから ご参加ですか？

参加者さまお住まい一覧



総勢 96名!

たくさんのご参加をありがとうございます!

短歌な大忘年会とは

短歌な大忘年会連絡係：龍翔

みなさま、こんにちは。「短歌な大忘年会」の連絡係（幹事と呼ばれるのが苦手で、このように名乗っています）をしております、龍翔でございます。

あれはまだ中崎町のサクラビルに〈葉ね文庫〉ができる前、〈Books DANTALION〉というzine専門店があったころ—2011年に「短歌な大忘年会」は始まりました。初めは「一年に一回、忘年会という名目で、関西の短歌をつくるひとびとが集まっておいしいものを食べたり飲んだりしつつ短歌について話したり話さなかったりしながらわちゃわちゃする会」というようなとてもゆるくて長い名前だったような気がします。

そのころは、超結社の集まり、というか、結社やネットといった「場」を越えた集まり

はまだまだ少なかったので、「関西」と名乗ってはいましたが、北海道から鹿児島まで、全国から参加者が集まっていたのでした。

それから9年間、毎年回を重ね、これまでに総勢163名のみなさまにご参加いただいております。



短歌な大忘年会の歴史

第1回 (2011.12.22)	参加者 22名
第2回 (2012.12.15)	33名
第3回 (2013.12.21)	46名
第4回 (2015.1.11) ※新年会	48名
第5回 (2015.12.27)	46名
第6回 (2016.12.17)	49名
第7回 (2017.12.9)	42名
第8回 (2018.12.16)	41名
第9回 (2019.12.22)	38名

鍋にまつわる 7 篇

寒いのはさみしいに似て嫌いだと言うきみのためシチューを煮込む
俺ひとり鍋はひとつで生きていくもやし料理のレシピ増えゆく
憎しみを打ち間違えた肉染みと煮豚のタンゴ ※丹後ではない
わたしたちいつかは魔女になるつもり今はポトフを仕込んでいるの
何味にするか争う日曜日ロールキャベツはくすくす笑う
ささやかな抵抗として串に刺すおでんに味噌をたっぷりつける
チョコレートフォンデュするのに嫌がらせのようなハートまみれの土鍋

あうたな
新 棚 の い
@hccmono



つけてみそかけてみそ

SNOW & BLUE

イヤホンにふたりの好きな冬のうた聴き終わる前に来てくれたらな
まだ箱を開けてはいないプレゼントみたいにきみはポニーテールで
手袋の片ほうだけをした手よりつないだほうの手が暖かい
12月の連絡橋の中ほどで時間の流れを止めた気がした
雪色と青に灯った街路樹のどれか一つを宿り木にしよう
冬風に振り返るたびオレンジのタワーが僕の後押しをする
一日の終わりにきみがいてくれて櫂のつづく坂上りゆく

あめかうしとしひろ
雨 虎 俊 寛
@amefurashi3107



グリル梵のビーフヘレカツサ
ド

回送電車

一人では生きていけないこの街のファミリーマートが明るいだけで
来世でも一緒に暮らす約束をしながらシャトルバスを待つてる
なんでもない幸せとかを感じたいイオンで牛乳買うときみたいな
生きるには短い時間二人して月を探して笑っていても
公園でみつからなかった花たちが知らないところで息絶えている
苦しいと言えない僕が目の前でコバエを殺すことを許して
救われる想像なんてできなくて回送電車を見送っている

あめの
天 野 う ず め
@uzume_no_hijiri



おしどりミルクケーキ

忘年怪

金棒で来るなら来いや部長以外みんな鬼殺しを飲んでいる
黄桜を頭にかぶるカワハラは皿で味わうつもりなんだろう
首以外も伸びるんかいなるくる首 男子の話す全てが猥談
あいつ天狗だな鼻に海苔貼っておけ 男子の話す全てが猥談
海坊主くんは飲みすぎだから穴の開いた柄杓を渡しておいて
一本ずつ唐傘おぼけを抱えるように両側から支えてもらってる
マフラーの忘れ物かと思ったら酔いつぶれてる一反木綿

あまがさきたけし
尺 崎 武
@amagatak



からあげ

色彩をうばわれたまま八月が刻一刻と失われゆく
 くちびるを重ねてみてもあなたからすべての熱を奪いきれない
 吸って吐くまた吸って吐く吐く方にできるかぎりの熱をとじこめ
 のみこんだ行かないでっていうことは育ちつづけて胸を破るか
 線路際あるくわたしと蝉の声ほかにはなにもないなにもない
 ついにいま列車はうごくばいばいをする彫像をホームに残し
 八月の三十二日終わらない夏にあなたと灼かれていたい

うおずみはすな
 魚住蓮奈
 @hasnan_mhd



持ち寄りのお品
 にんじんカラムーチョマヨネーズ和え

宝塚歌劇のような夢見たし 花 月 雪 星 宙なべて燃ゆ
 摩天楼が夜に触れたるあたりへとバックギャモンの駒を失う
 ピアニストとピアノの主従関係を崩しつつ弾く短夜やさし
 相まみえる男うつくし星月夜のウォン・カーウアイの映画のなかに
 うつくしく名づけられたりうつくしからぬものゆえてらすはうすという名
 空耳のように聞きまた口にするオクトーバー・サプライズなる語を
 夜の牙城をすかに崩すわたくしというマクガフィン詩のなかに置く

い か こ な お か
 五十子尚夏



持ち寄りのお品
 当たり障りのないもの

ひとかけの銀河の一部となることを「上京」と呼ぶ十八の春
 新宿のネオンに溶けて戻らない街を忘れるための標準語
 東京に行けば何でも手に入り何でも捨てられると思つてた
 帰るべき場所が分からず空港の保安検査で足止めされる
 わたくしはきつと彗星だったのだ 銀天街の裏道を行く
 蛇口からポンジュース溢れ出すように待合ロビーに響く伊予弁
 どこにでもあつてここにしかないもの松山名物東京ケーキ

あんどう
 杏藤ミレイ
 @301biscuits



持ち寄りのお品
 紅まどんな

あしひきの山形県産ラフランスのシュークリームを不二家で三つ
 冬の虹 またひとり減るさみしさを剥がして食べるバウムクーヘン
 アドヴェントカレンダーのごとあさなさなちさき扉をけふも開けたり
 うすくうすくスライスをするシュトーレンに化石のやうにひかるくだもの
 らふそくの溶けきるまでを見届けるサンタの載ったケーキを買へば
 パリパリとチョコを割りつつピエネットひとりじめするさみしさがある
 一年のよしなしごとを持ち寄つてひかりのなかへ お茶にしませう

ありむらききょう
 有村桔梗
 @chattenoire_k



持ち寄りのお品
 琥珀糖



短歌な大忘年会と私

谷(たに)じ(じ)ゃ(や)ー(ー)
@sabajaco

目立つのそんなに嫌じゃない性格なので、マイクで喋るといのが割と好き。歌うのより喋るほうがよく、さらにマイクを持って喋りながら客席を練り歩きたいのが一番アンション上がる。それをなぜか毎年やらせてくれるのが、私にとっての短歌な大忘年会、なのかもしれません。

こんな風によく、「は？ どんな派手な忘年会やねん。」って感じやけど、私がマイクを持って練り歩くのは、忘年会の中盤くらいに行われるプレゼントコーナーです。自分で本を作っていたり歌集を出しているような人もいます。任意でプレゼントを提出してもらっています。うちも自分の作ったZINEセットを持っていたよ。読み終わった本やダブって買ってしまった本の人もいるし、お菓子とか文房具とか持ってきてくれる人もいたな。みんな優しいからいっぱいプレゼントが集まるので、全員になにかしらが当たる。そんな素晴らしいコーナーの司会を、ほぼ毎年させていただいているのです。

「わつ、これは大当たりですよ！谷じゃこ提供のZINEセット！すんばらしい本ばかり！これは、〇〇さんです！おめでとございます〜！」とか適当なこと言いながら、次々にプレゼ

ントと当選者名を読み上げていく。受け取った人は、「嬉しい！」とか「持つてる〜！」とか「読みたかったやつ！」とか言いながら、さっそく読み始めたり、見せ合ったり。ついさっきまでおしゃべりしていた人の本が当たったりすると嬉しいし、そのまま感想を伝えることもできる。もう持つてる本が当たった人同士で交換するのもあり。うちはひたすら「次は〇〇さん！うまい棒いっぱいセット！ちなみにうちはたこ焼き味が好きです！」とか言いながら、楽しそうにおしゃべりする人たちの間をぐるぐる回ります。お酒も飲んでから酔いも回っちゃうね。

短歌な大忘年会の思い出は毎年めっちゃいっぱいあるけど、どれも個人的なことすぎてエッセイにするのはなんか違う。とある人には毎年「おつ、係長！」と話しかけるし、またある人とは缶バッジを交換する。毎年二次会に一緒にいって一方的にお節介を言っちゃう人もいます(これは毎回反省してます)。みんなでわいわいするから忘年会という塊に見えるけど、思い返してみるとマイクを持って歩き回ることも含めて、個人と個人の思い出やんな。楽しくなつていつもお酒飲みすぎちゃうのが困るけど、今年でひん分も来年はまた飲みすぎたいな。



可能性

とぼしさをたぶん知っている爪先の重さがおぼえていてくれる
とりにかくはこんなに寒い冷蔵庫で風邪をひいたりしないのだろう
五二五〇〇円と値が付いていてそれがこの世にあったとわかる
飛ばなかった飛ばす方の風船が僕のところどころがっつくる
あの映画砂糖ばっかり出てきたなという感じにあなたを思った
人生で最後と決めたラーメンを引退するプロ野球選手の集中力で
孤独死と呼ばれていつか死ぬんだろうあなたの過去に囲まれながら

うしりゅうすけ
牛 隆 佑
@ushiryu31



ルマンド

グルグルスキップ&スパーク!

会いに来たグルグルメリーゴーランド ムチが入ってゴーゴースパーク!
年越しはネット配信除夜の鐘アーカイブでもご利益スパーク!
忘れない本気になればできるって 手洗いうがいマスクスキップ!
年ごとに年をとるのね真面目だねスキップしましょ、ワン、ツ、スパーク!
二年後はマスクの下の唇がワイセツだとか…… スパーク! スパーク!
和やかに集うリモート一人鍋 泥酔全裸猫もグルグル
令和二年忘年会で弾き語り♪グルグルスキップ&スパーク

うそだみやこ
宇 祖 田 都 子
@Shinnsyutu2020



ロイズのポテトチップチョコレート

啼かない燕

信念をもちたずに揺れる頭にはりんごをのせることもできない
つばくらめ宝石なんか運ぶよりそばにいたいと言えはいいのに
ローソクをケーキに全部立てられた頃の夢すら抱えたままで
性格を変える努力ができなくて補整下着に押し込む身体
偏食を治す気はない人生の醍醐味なんか知らなくていい
呪うという字の中にいる兄だって愛されたいに決まってるんだ
神様は放任主義と知っているけれどたまにはかまってほしい

えんどうけいこ
@clematisilica



持ち寄りのお品

キッシュ、ポテサラ、ラタトゥイユ

隣のきりん

ただいまと言う場所がない行き先を決めない旅をしてばかりいて
どこが好きと問われて黙す かんたんに目とかゆびとか言いそうになる
叫びたい夜もあるから踏切で特急列車が来るのを待った
この星と同じ角度に傾いて雨だれの音を拾う柴犬
甘やかすことで甘えている夜はトロと玉子を交換したい
届かないものがあっても微笑みを きりんのようなひとの隣で
死ぬまではたぶん一緒だ墓地のない町で暮らしていくわたしたち

えのもと
榎本ユミ
@enomotoyumi1007



持ち寄りのお品

地元の総菜屋さんのチキンボールたくさん！

残照

ウォーキング帰りの道はほの暗く西の空だけやけに明る
残照という連作を作ろうと決めた明日が締め切りだから
「残照」を検索すると夕空にちょいちょい混じる山内恵介
追いかけるものもないまま俺だけが見たことのない道端にいる
年越しのカウントダウン短歌にも山内恵介出てくれねえかな
ぼんやりと月が光って寂しくて忘年会の帰りみたいだ
残照という連作はなんとなく残照らしい感じになった

えいじ
泳二
@Ejshimada



持ち寄りのお品

近所のチーズ屋さんで買ったチーズの詰合せ

アマビエ被害者の会

アマビエの笑顔はどつちなんだらう 一緒に細々やってきたよな
身を切つてマスク作れば浮かばれる？ 一反木綿フワフワしてる
浮かれてた涙を拭うろくろ首 妖怪メダルのモデルになって
小池知事協力をくれないか 砂かけババア砂をかけない
お手上げよ子泣き爺がぐにやぐにやだ くつくつとこから俺らの仕事よ
腕を組み目を閉じヌリカベ待機中 飛沫を一番防ぐの俺だと
コロナいうてもボッチはボッチやから ダイダラボッチ鼻をほじほじ

うづ
宇津つよし
@uzuyoshi



持ち寄りのお品

残波（泡盛）

病む冬に

第三のビールを買いつ明け方になるまで酔っていられるならば
それぞれに真冬の酒を どこにいても酒は酒だ血に混じりつつ
恐れるな明日はさなぎになる体なる魂をこぼさぬように
酔っ払う羊を数う積読を数える方が早く眠れる
怪獣もウルトラマンも宇宙人も私も酔っている病む冬に
病む冬に健やかな雪降り積もり…嘘だよここは雪のない街
天国で令和二年をもう一度やろうじゃないか杯をかかげて

おおはしはると
大橋 春人
@hachidx2

きみがいる世界の冬

イルミネーションに紛れて泣く星をきみは上手に見つけてしま
爪に降るぎんいろのラメこの手ではせいぜいきみにしか届かない
たぶんあの星はポラリスではなくて昔の恋は昔の恋で
真冬日に交わす言葉は愛となり詩に含まれる死は透き通る
吐く息は真白に変わるそういえばいのちのことを息とも言うね
どこへでも行けない冬にきみがいてポインセチアはあざやかである
存在を確かめるためつなぐ手のひかり、ひかれば、ふたりはひかり

おかだ なぎ さ
岡田 奈紀 佐
@spice16g

帰り道

趣味 君のLINEを見返すこと 特技 君から返事が届かないこと
不機嫌になる気がしてあえて言う地雷の位置をたしかめるため
A子からプレゼントされたスタンプをB子に送る時の指先
どうせならもう少しオシャレなビルにしようそうやって今日も飛ばないでいる
ついさっきまで並走していた人がもうあんなにも先を歩いている
神様の向かいのセブンで募金するちゃんと見てるとゆっくり入れる
ペットボトル成分票をじっと見て時給が出ればすごくいいのに

おかもとゆうや
岡本 雄矢
@yuyaokamoto1984

明日につづく

目が穴になって全部が流れ出し空っぽなんですわたしの中は
そうやってできた場所には食欲に老若男女を詰め込むつもり
やわらかい容器 両手で頬に触れ己の領土を確かめている
二の腕はポーチにトートは太ももで素敵な物になると思うの
臓器には可愛らしさがなければね見えないとこに置いておこうね
足の指大嫌いだな神様が疲れて最後に削ったんだな
あいまいになってきたから今日はもうおしまいにする明日につづく

おがわ
小川 けいと
@ogwkit



持ち寄りのお品
酸梅湯



持ち寄りのお品
チキチキボン



持ち寄りのお品
自家製さくらんぼ酒



持ち寄りのお品
カツオのたたき (もちろん塩たたき)

短歌 renewal

僕歌集。破られなかった事に感謝。手に取ってくれる人が大好き。
川沿いの額縁屋さんで面白い物し、納屋橋まんじゅう食べる幸せ
semplice。塩と胡椒とオリーブ油。サラダの横に突っ立っている
それいいな家族になろうと言う好機これを逃すと一生独身
ドントマイ！あなたは西の善き魔女だ。師匠と仰ぐ弟子がたくさん
無理せずに健康第一。八時間。なにごとともなくすごす修行だ。
良く煮込むチャーシューとても美味しそう。食べに行けない理由書けない

か い ぜ ん
@kaizen_nagoya
@kaizen_nagoya



持ち寄りのお品
丸鳥 (roasted whole chicken)

スクール・オブ・ ロック

その夏は消えてしまったスクール・オブ・ロック公演中止 変声期
いちどしか演じられないその役が確かにあった君たちの夏
体制なんてくそくらえだと叫ぶとき体制はすべてしかばねの城
出ぬ声をかぎりに歌いギターかきならして君よもういちど生まれよ
シュニーブリー先生にはなれぬ堅物のわれがビートルズ説く五時限目
カレン・カーペンターの発音まねし少年の日のMDをいまも持ちおり
教室にロックン・ロールの波はなく窓を開けたり換気のために

かいざわしゅんいち
貝澤駿一
@y_xy11



持ち寄りのお品
アイリッシュウイスキーの「ジェイムソン」

忘失の刻^{とき}

一年がまた重なって歎びと苦しみを分かち難くする
くちやくちゃのガードレールを撮っていたでも無くしたんだ夜はひそかに (明けている)
妹の左翼の教師が教えてた覚えてるよ to put an end to war
昼下がりに暴走バイクが駆けていく庭には親父の欠けた茶碗
余所行きで会おう懐かしい河原とか愛しています、私ここで
もう遠い過去のことかなサバイバー聞こえる？ シロツメクサのうた
聞こえるか記憶は地層いま解ける溶け始めている春はこれから

おりはうさき
折原咲樹
@saki3orhr



持ち寄りのお品
スパークリングワイン

校歌

あの崖の向こうの景色が見たいから風に住所を聞いてしまおう
沖繩と北海道は本州を本土と呼んで乗船カード
摩周丸想いを乗せて寝ころんだあの日の大河ドラマはなあに
ブレーキが無いから乗ったら進むだけコーラの瓶が崩れて落ちる
もう少し大人になればと君は言う玉子はずっと半熟が好き
欲しければ奪ってしまうかもしれず救命胴衣の赤はくすんで
東京はめがねを外していいところ電報はもう届きはしない

おぐら
小倉るい
@komp110



持ち寄りのお品
何を割っても割らなくても強炭酸水

要諦は表面温度

小手先のライフハックでしのぎたい遅寝早起きもう一度寝る要諦は表面温度揚げ焼く炒める中華鍋でタンメン
深すぎる歯周ポケット完全に出遅れているデンタルフロス
重視する医食同源R-1にんじんジュース鶏の胸肉
腰痛の対策としてコルセットラジオ体操自己の肯定
肺炎の対策としてマスクするうがいもしてる玄米も食う
小手先のライフハックでしのげない雨には傘をカーボン製の

か い ど
瀬 井 戸
@kareido1111



二見の肉まん

ツール・ド・フランス にママチャリ

空っぽの水筒をただじつと見るあてにしていた湧き水がない
地味な服ばかり着ないでくださいと贈られた服メルカリに出す
太陽と月は同じ星だつて君が言うから月を隠した
切なさの花火が上がる新しい闇を求めて彷徨う光
サヨナラの理由伝えず去ったのはずつと輝く夏にするため
学校をサボって海で泣く君と同じ罪で括られてる
キリンほど首が伸びれば良かったね希望の雨に濡れた私

き た お お じ き ょ う す け
北 大 路 京 介
@princekyo



阿闍梨餅



答え合わせ

つ じ せ と し
辻 聡 之
@staiji1983

ダチョウという鳥はその小さな頭部に比して眼球が大きく、その分だけ脳が小さいため、視野が広く外敵に気づきやすい反面で極端に記憶力が悪い、というのはテレビで得た知識だ。すぐく不便に思ったけれど、ダチョウにはどうでもいいことなのだろう。そして、もしも僕らがダチョウだったら、一年の終わりに忘年会なんて開かないに違いない(どういう仮定だ)。

名古屋に生まれて名古屋で育って、一人暮らしをしている今でさえ車で十五分の距離に実家がある生粋の名古屋っ子であり、他の土地で生活したことは一度もないというのに、大阪という土地に対しては「第二の故郷」だと思っているところがある。将来、名古屋の地を逐われることがあれば、ぜひ大阪に身を潜めたい。もちろん、そう思えるのは、短歌を通じて大阪に友人知人と呼べるような人ができたおかげだ。そして、それは短歌チョップや空き家歌会、「かたすみびあの」や『羽虫群』批評会、そういつたいるいろいろなイベントが精力的に行われていたからこそだろう。そのたびに打ち上げの宴がわいわい開かれ、僕は快くその場に迎え入れてもらえたような気がしていた。なんか、大阪はみんなあつたかいんだよなあ。

「短歌な忘年会」はそうしたあれやこれやの積み重ねがジャンプ台となつて、年の瀬に僕を名古屋から大阪へと召喚せしめる魔法となつたのであった。所属結社の忘年会と日程がかぶつて常に参加できていたわけではなく、けれど、いつも楽しそうだなあとツイッターのタイムラインを眺めていたものだ。

具体的にはどんなことがあつたつけ、と思つて(記憶力が悪いため)過去の自分のツイートを遡つてみたところ、「なんか楽しかった」くらいしか情報がなく「おまえ……!」と呆れるほかに。しかたないので名古屋で仲よしのルイドリツコさんと話していたら少しずつ記憶が甦つてきた。そう、我々は関西の忘年会で初対面を果たしたのだ。あの時はこんなだった、あの人もいたよね、と確かめながら気づく。何年か後にも、こうして盛り上げられる共通の思い出がある。そうやって毎年少しずつ、問題集の頁を足していくように開かれる宴があるなんてなかなかない。やつぱり魔法みたいじゃん。

記憶に自信がなくてもいい、本当は事実と違つていてもいい、いつそスルしてエピソードを捏造してもいい。だから、あの日、あの時、あの場所の忘年会にいた人たちよ、いつか、楽しい答え合わせを。



西高東低

嫌われてないかもだけど好かれてもないからずっと続く断捨離
どうせまた西高東低どんよりと低い雲から朝はこぼれて
もう冬は敵でしかなく適切な戦闘服をしまむらで買う
雪国という色のない世界でも光るだろうかポインセチアは
ふと仰ぐイルミネーション君とみた神戸に似ているけど似ていない
笑笑のシャカシャカポテトメガ盛りを令和二度目の年末に食む
残金が888円で末広がりとなる年の暮れ

こうじう
香村かな
@komukana



デザートにル・レクチェ

東京の雪

ため息も白く染めてる冬の空は不安を集めて雪を降らした
足跡が一方的である粉雪が積もりし町を背を屈め歩く
気温よりまだ体温は高すぎて足が悴む駅まで5分
灰色の東京の雪をふるさとの母に告げずに受話器をおろす
低気圧がはりだすように車道から雪はとけだしてできる水たまり
イヤフォンがひやり冷たい改札は人より風が通過していく
誰もみな猫背になりて電車待つ日陰に電車は5分の遅延

くろすさりな
黒須紗里菜



シャンパン

マスクの内側で

上空に「聞いていますか」飛ばそうぜ湯船は人の名字だつてよ
札幌のポロだけ僕が預かるよ電話口から解き放つので
神様はロリータ服の洪水も人を滅ぼす選択肢です
間違えて材木のなか混じっている仏蘭西麵麴が漢字表記で
「いかなごで楔形文字つくること」嘘おっしやいな釘煮のレシピ
鶴なんて上等やんか俺たちは普通の女の子にもなられへん
天晴れの天を取ったら晴れなのでその表現で雨を褒めるな

くほてつや
久保哲也
@qtetu



とりあえず飲めワタクシは端の
座席でマヨネーズ吸う

絶望コレクター

もうすこし優しくければ良かったねそれなら好きにならなかったのに
瞳だけ微笑まぬひとのくちびるが薄く開いてわたくしを呼ぶ
脱ぎ捨てた薄いぬけがらつま先で探りながら抱きあっている
ひとつずつ思い出しては貼り付けてアルバムを作りおしまいにする
綺麗事と本音の狭間で生きる日々絶望感を拾い集める
少しでも甘さの足りない絶望に丁寧なアイシングを施す
ひそやかに甘美な絶望並べてはうっとり味わう新月の夜

くさなぎさう
草凧沙羅
@sarafuwahira



地元の美味しい牡蠣かなあ〜

思い出は死ぬ

深夜24時に間に合わない私ポロ服だつて踊れるはずだ
さようなら今夜のことは忘れてね思い出と夢は同じものよ
よみがえるゾンビのような思い出を殺せないまま風呂に沈める
ていねいに淹れるお茶しか届かないもうお終いね眠りましょうか
夜のふち眠れるまではそばにいてじりじりと朝燃え上がるから
思い出をつれて立ち去るタクシーだあなたもろとも炎上してよ
「一緒にさ死んでよきみ」と微笑んで愛してるよりも言つてほしい

こまこ
@komako00xx



自作の果実酒

極夜

雨の昼圧されるような眠たさのなか便箋を選んでおりぬ
鳥の声遠く聞こえる浴室であなたは極夜のことを話した
泣くことも少なくなりぬ夜明け前青いぶどうを強くすすいで
譲られし詩集に強き筆跡の文字とはときに懼のない舟
落ち葉深く降り積もる野に渴望は骨格をもつ 手を繋いでて
群青をまといたいのだあなたからの手紙を燃やす真冬の一日
花びらが水に落ちれば水の面は昏く翳りぬ それほどの白

さとうはな
@s_hana111



春巻き！

ボックス・ コンプレックス

あのバーのジントニックが飲みたいと言われて向かう十七時前
しあわせの箱を抱えてあたたかい表通りを歩く人びと
路地裏の風がつめたく吹き抜けて抱き合うための言い訳とする
約束の十九時に着くその前に絡んだ指をほどく約束
あの人はふたり同時に来たことを箱にしまっておしぼりくれる
持ち寄った子ども話の箱が開ききみの時だけトイレに逃げる
帰り際バッグを探ると触れてくるきみにもらった小さな箱が

さとうひお
佐藤水魚
@satohio_tanka



鎌倉名菓クルミッツ
プス

ンカボネウイ

もうすでにナタを持つてる人がいて一旦斧を置きに帰った
マグロの解体ショーをする人の目を『ホステル』で見たことがある
稲妻を纏ったスマホを向けられる「僕のポエムはひと味違う」
焼け焦げた人のスマホを覗く詩を読みきる前に画面が消える
「いいポエムを書くね。でも……」上澄みだけをもらって振り返らず走るんだ
「二十円です」えっ会費？ 安売りは業界のためにもならないよ？
僕たちは∞次会までなだれ込み暮れ続ける年を彷徨っている

サラダビートル
@kyokousalad



50gしか入っていないポテトチップス

長い秋

約束をどちらが覚えているでしょう灯台躑躅の葉の燃えるころ
けもの道をゆきつもどりつ十五夜の月にわたしの影は生まれて
北斗、また冬を過ごそうどの家も眠ったあとは居心地がいい
言葉より触れていたくて指先のよく冷える夜を選んで来たの
微量きみを摂取したのち光りだすカフェインレスに慣れた身体は
奪いあうように降る雨もう一度笑った顔が見たかったんだ
大雪の予報を知らずこの町のガードレールは野菊を守る

しまだ さくらこ
@sakrako0304



オリジナルレシピのロースト
ビーフ

忘年会

「生の人」とりあえず手を挙げといた ぼくの身体はまだ未加熱だ
取り分けて見せてる女子力知っているあなたはいつも気が利くことを
からあげにレモン勝手にかけるやついつも常識欠けるやつだよ
右側か左側とか迷ってるどっちつかずはここでもでるか
好きな人いるとか聞くなやめてくれぼくじゃないのはわかってるから
テーブルの料理に合わせ口数が減っていきつつ皆赤い顔
店外の風がほろ酔いさましてくまた来年もどうかよろしく

しまざき みとん
@cats_eye_tanka



フライドポテト

新しいまぶた

木星を捧げた喉が輝いてきみの居場所を知らせてくれる
足首を冷やした女たちばかり集まる夜の朗読会に
おさなごの指紋のついた眼鏡には昨日の空が映されている
手触りの違う記憶を追いかけて泉の底で待つております
母親のわたしをOFFにできなくて体の隅で焦げつく光
独白のような日暮れに形骸化したやさしさをまだ抱いている
新しいまぶたを朝が湿らせる遠ざけられて愛するように

しばた ひとみ
@cats_eye_tanka



成城石井のプレミアムチーズ
ケーキ

おおそうじ

椅子に乗り天にむかつて手を伸ばす祈りみたいにライトを拭いた
とりあえずパストリーゼを噴霧する聖水めいた舶来の業
外側にまわって窓を磨くときずいぶん深い空のひろがり
祈りから怒りに変わる換気扇汚れをこそぐ指の力は
浴室に棲むカビたちに布告する「速やかに去れ、さもなければ撃つ」
掃除機のヘッドに絡む抜けた髪あやまりながらほどいて捨てる
玄関の三和土を掃いて水を撒くザッと磨いた風がうまれる

しげみ 茂巳あち
@achishigemi



日本酒チーズケーキ



アダルトタンク

A T 的忘年会

福島多喜

忘年会、それはその年にあつた様々を、気の合う仲間と語り合い、分かち合い、来年へ思いを馳せる会である。

本来楽しいはずの忘年会、苦手に思う人もいることだろう。それほど親しい人がいるわけではない職場の忘年会などその代表に挙げられる。そんな時に楽しく切る方法をひとつ伝授するべく、今回筆をとった。

その方法とは、その場で一番好きな人を作る。である。異性でも同性でも、店員さんでも会のメンバーではない、隣のテーブルの知らない客でもいい。とにかく直感で好ましいと思える人物にロックオンするのだ。そんな直感なんか無い？そういう人は話が進まないで横に置いておく。

ロックオンしたら、まずは本気で恋をする。拙歌に「セックスにどう持ちこむか考える付き合うとかは考えてない」という一首がある。この歌はまさにどこかの忘年会でできたものだったと思う。たぶん。で、最終的にセックスであるから、ガンガン攻めていかないと忘年会の3時間ちよいでは時間が足りない。あの人と話してみたいけどどうしようかなー今他の人と喋ってるしなーな

どともじもししている場合ではない。ストロング追加である。酒の力でもなんでも借りて、ついでに相手に烏龍茶でもぶっ掛けて、トイレにでも連れ込むべきである。(酒をかけてしまつと臭いので、相手の気分を害してしまう危険性があるため) 一生懸命謝りながら拭いてくれる彼女の潤んだ瞳、滲む汗、さりげなくタッチが繰り返される下腹部にきゅんきゅんが止まらない。あれ？なんかちよつと、好き？かも？ そう思わせられれば成功だ。戻った後もさりげなく近くの席をキープ。隣が無理なら向かいでも良い。とにかく手または足の届く範囲に座ろう。そして、ここからはボディタッチ作戦だ。古典的と侮るなかれ。いつの時代も直の触れ合いに勝るものはない。見晒せSNS世代！ 私のおすすめは足だ。隣ならふとももを、向かいならふくらはぎを擦り寄せる。マスター！こつちに濃いーつのちようだい！ ここまでくれば実質セックスである。この後実際に肉の関係になろうがなるまいが、セックスしたも同然である。

最後になったがこれだけは言っておく。私はお酒が飲めない。一滴もだ。



持ち寄りのお品

唐揚げ

色とりどりの透明

気持ちって見えないけれど有線につながってたり切れたりしてる心からのびる気持ち透明でよかつた見えたら窒息してた色づいた内なるものが集う場所だからSNSは底無しあるだけの情や思考を広げたらきつとひとり包める地球想うなら伝え続けていかないと枯れるよ気持ちはいきものだからこれまでに私が忘れてきたことはわたし何人分ほどだろう胸に置く小箱をそつと開けてみるこぼれだせ虹や言葉や暗がり

しみずはるか
清水晴架
@haru_uka24

持ち寄りのお品

いぶりがっこチーズ

欠片

靴の裏で消した吸殻 この街を何処かで踏みにしり出てゆくよまつしろな骨がはみ出す心地してあの日砕いた器の欠片紅き血を隠しきれずに融けてつた淡雪 過酸化水素が沁みるでもね、てのひらのiPhoneさつきまでつながつてたつて嘘みたいだね恋敵のように恋したあの夜を疾走すれば辿りつく海少年の終末期まだ生きている空の青さに眩みながらもショートストップ 背負っていればまた前へ転がるボールへ突っ込めたこと

しゃーらん
西鎮
@xi_zhen_ivUT

持ち寄りのお品

地酒「裏・雅山流」に手作りのもつ煮を添えて…

「きみは十進法に とうわれすぎている」

とホルヘ・フランシスコ・インドロ・ルイス・ボルヘス・アセベードが言った
図書室の奥には遠く国ありてかすかに柘榴の花の匂いす
何の罰だったのだろうおはなしは一つだけよと母は笑えり
千一夜物語を読むことも版世界文学全集の悦楽
目覚めるととりあえず水その水を求めこうして舟に乗っている
最高に満ち足りていた。弟とぼくが読書を発明した日
いつまでも書き終わらないバビロンの橋で出会った手の物語

じゃっくまの
雀来豆、
@jacksbeans2



持ち寄りの
お品

"午後の死"という名のカクテル

出会えましたか？

はじまりときっかけは別に思い出さなくてもいいよ今が大事よ
ごめんねとありがとうだけ重ねてる失ってまた失ってゆく
今もまだ奥行きがない過去にいてぜんぶが好きで泣き出しそうだ
点描のままでかたどられてゆく夢にあたしはまた近づいてく
夢だけはこんなに自由愛だけを持つてるうまく伝えきれない
こんなにも自由な言葉を抱きしめたきちんと前を向いて歩くよ
いつまでも覚えていよう水面にはきらめく記憶が眠り続けて

しうゆいな
士良唯菜
@mana_tsu_1318



持ち寄りの
お品

ロッテリアのチキン！（毎年予
約してます）

アジトへ

怖いものなしであるのが怖かった砂場の砂をどどん詰めて
賞状を受け取る側で憂慮した胸のブローチ 飛び立ちなさい
宝石を手から生み出すようにする物書き ずっとなりたかったの
花泥棒 そんなの全然意味はなく満たされたいなら正攻法で
爪を切る 空に透かせば三日月が少し笑った、ような気がした
まっさらなアジトを作るコンビニで食糧を買う さあこれが地図
ああ義兄よあなたに砂漠を見て欲しい人生だつてそう言うものよ

すずきともこ
鈴木智子
@cfun820_t5



持ち寄りの
お品

チェロケバブ（羊のケバブ）

ぬるま湯

ねえあのさ、ちよつと、聞いてる？ ああごめん。その瞬間は俺を見るから
髭剃り機？ どれが良いとか知らないわたかがネイルと呟いたでしょ
紅茶派の君が残したレモン色合わない色ねと言ったじゃないか
化粧してスカート履いて背伸び靴君が嫌いな私になれた？
どれがいい？ どれでもいいよ。ええひどい。君が笑えばなんでもいいの
何光年？ 過去の光を見るのよ未来を夢見て何が悪いの
ぬるま湯に浸ったような恋をした液体窒素に飛び込んでくる

すずめ
@Sparrow_novel



持ち寄りの
お品

ケーキ

あした至福になあれ

まず恋の構図を微細に決めてから始める冬の悪女の役を
たそがれてゆく薄茶色のパンを買う あなた、そんなにおぼろげないで
なみなみと善意のような感情を注がれふらつく容器の私
受け売りの言葉しかないこの唇にあなたは舌を差し込みたがる
シャンプーを詰め替える夜そうこれは悲しくはないほうの依存だ
ためいきのあったところのまだ奥に 香水一滴ただ光らせて
年下の男と眠る いつまでも誰かの青をそっと摘みたい

たえなかず
@suzusuzu2009



持ち寄り
のお品

ポカリスウェット。飲みすぎた
とき飲んで復活したい。

焼き鳥屋

裸木の銀杏ふるへる街にゐて日本酒が待つ焼き鳥が待つ
燗酒を注文したりおしぼりのビニール越しの熱感じつつ
焼き鳥を燻せば煙は巻きたちてエアコンの白き靄と混じりぬ
齒触りと肌触りは似る鳥皮の端は焦げぬるかをりを放つ
ホルモンは放るものとふ意味なればつぎつぎはふる胃の底ひへと
串持ちし指はタレをば纏ひをり箸袋へと拇印残せり
週末も人の少なき夜なるか何処かの店のジャズが聞こゆに

そのん
蒼音
@chari433



持ち寄り
のお品

とっておきの日本酒

そして負け越し

駅ビルでコンビニでいま入口ですすでに酔いはじめている両手
「えっとね」の後は必ず出汁巻きを指す指先を拭うお絞り
何もかも炭酸割りにする会話後を引かない刺激ばちばち
とりあえず生、のトーンで君が言う好きの言葉に救われている
ゆっくりと点対称に傾ぎだす卓に連なる空の皿たち
悟られず失恋をしてレモンハイぐぐつといけいやにすっぱい
赤いのも熱いのもただ酒のせい悔しいね嫌になるね大好き

ソウシ
@sixia0uT8BMBIgp



持ち寄り
のお品

先日実家から届いた林檎

Can't touch

荒れたね、と、荒れたよね、とでかざされて触れ合えそうに手の画面越し
何があったか問われたあとに手が顎をしきりに擦る なくないだろう
どうしてもひとりが多い一年に真新しさは手の甲の傷
手へ熱を伝えるあまり燃えそうなスマートフォンも愛してしまふ
飲み物を取えて同時に飲んでる伸ばされた手の角度は同じ
気が抜けた手ばかり揃うのもいつも一本締めが締まらないのも
来年、となめらかに打つ手の色を忘れる前に出迎えていたい

せんじょうちひろ
千仗千紘
@Chihiro_Senjyo



持ち寄り
のお品

北海道銘菓(おみや用)

秋から冬へ

秋深きあなたがあなたであることの祈りのようなオリオンの星
ああこれは明晰夢だねいま俺は有村架純に壁ドンしてる
この星はビーフシチューの星であるただそれだけで宇宙最高
青空を消しゴムで消すそうすればきつと宇宙の星が見えるよ
自分より若いふたりが「今どきの若い子は」って話をしてる
軍資金またの名前を生活費祈りつつ見る競馬中継
見上げれば吐く息白く天を衝く星降る里のクリスマススイブ

たなかすいか
田中翠香
@suikakinenbi



豚の丸焼き

天気予報

今日も晴れ雨女と別れてからずっと鞆の底の折り畳み傘
(ごめんなさい、本当は傘持ってるの。)横目で濡れる肩に謝る
降るような星空からの落とし物 月も星もほら海におかえり
台風の直撃地点できみは言う「好きだよ」びたり。全てが風いだ
万感の想いを込めて月を褒め理系のあの子は首を傾げた
好きなんだ風で前髪が崩れても直さずに目を細めるところが
LINEする口実がないからといって毎晩天気を予報しないで

たらあおい
立葵
@Alcea__rosea



可愛い練り切りを持っていきます！

飲み会の夜

飲んだあと銀杏BOYZ口パクで歩く深夜の風あたたかい
自販機の前で寝ている人ひとり、ふたり、さんにん、ひかりの呪い
内臓を開いてきみに晒したい欲の代替としてサシ飲み
太もものぶつかる距離に居たくせにお店を出れば誰かの旦那
飲みの席で起こることは全部夢だからブスって言われたことも
前に行く二人のゆくえ見届けてようやく帰る二十五時過ぎ
「気づいたら箱根にいた」と恥ずかしげもなくLINEに報告が来る

たきとうあおせ
滝藤青瀬
@genso_aose



スミノフ

二枚のお皿

まみむめもなんとなく言うくちびると指輪に慣れてゆく薬指
あなたって四角いところをまるく拭くようなわたしのどきが好きなの
持ち寄った色も形もちぐはぐな二枚のお皿を重ねて仕舞う
大きいほうのお皿が少し欠けていて新たに揃える口実にする
コンビニのブッシュ・ド・ノエルを切りわけて今日だけ木こりになるわたしたち
手と手 星座に詳しくなくなつて星が見えればいつもうれいし
しっかりと千円ぶんの音をたて仕舞われてゆく二枚のお皿

たかはしりおこ
@nashkrkr



日本酒「緑川」

食べることしか 考えてない

かまぼこがべったりと貼りついてくる想像だけで辛いね冬は
光るではなくテカってるその星はマヨネーズっていう大正義
食べ放題では叶わないこの気持ち大人はいろいろ複雑なので
歯磨きをした後にくる食欲に懲役八時間を求刑
死に際に食べたいもんを主張する元気で余命一日追加
うまければうまとしか言うことがなく歯茎を見せてうまうま笑う
来年は丑年ですねそういうえばお肉券欲しかったな普通に

たに じや こ
谷 じや こ
@sabajaco

武器型祭器

東京の最低賃金 羨ましい 胸に銅矛たかく掲げる
背の低い町に暮らせば全身を見せびらかして溶けてゆく雲
月一回カウンセリング二千元 心にいつも武器型祭器
口内を転がる記憶 銅鐸の音が聞こえてくる夕暮れに
石室の涼しい風を思わせて亀の鼻息かすかにかおる
遠近法などない冬の星空がわたしに見せる退化の予兆
錆びついた心は思い出していた。出土を待っていた頃のこと

たむうほだか
田村穂隆
@Da_Ho_Ra

持ち寄りのお品
一宮酒造有限会社の地酒ケーキ



短歌な大忘年会と私

まっしゅ
松城ゆき
@chadgyuki

最初の忘年会の待ち合わせ場所は梅田ビッグマン前だったと記憶している。梅田には学生時代から二十代の前半、よく遊びにいった。何をしていたのか、どこに行ったのか、もうほとんど覚えていないけれど、ディスコやカラオケに行ったりしていたんだと思う。そういう時代だった。待ち合わせ場所は阪急のマクド前やビッグマン前だった。久しぶりのビッグマン前は、相変わらずの人混みだった。それでもやはり、あの頃とは違う。大人になった私は、いつの間にか夜遊びも梅田へも行くことが少なくなってしまった。結局、JRから阪急への乗り換えの最短ルートはわからないまま。もちろん、地下街から地上へも出たところ勝負のままである。私には梅田はノスタルジアの街になってしまった。あの頃の私は、「今はその時ではないけれど大人になったらきつと短歌を作るようになる」と思っていた。あの予感のような期待は何だったのか。やがて梅田は遠くなって、その代わり「いつか」はやってきた。私は短歌を作り始めた。そして、インターネットの短歌サイトに投稿したのが事の始まりだった。そのサイトに投稿している仲間と交流が始まり、リアルで歌会をするようになった。そこから毎年この忘年会をする仲間たちへと繋がっていくことになる。はじ

めはブログ、そしてmixi、twitterと交流の場所も変わっていった。そんな約十年のうちに、学生は社会人になり、結婚した人、恋人ができた人、歌集を出した人、賞をもらった人など、つぼみがふわりと開くようにみんな変化していった。加齢以外の変化がない私はそんな仲間たちをまぶしく思い、また、誇らしくうれしく思う。他人ではないような、年に一度必ず会う遠い親戚のような気持ちで見つめている。

ここ数年、私は忘年会の受付をしている。準備を終え、席に着くとそろそろエレベーターが上がってくる。その時の気持ちは近頃味わうことのない「ときめき」なのである。もう一度、何かが新しく積まれていくような思いを私はこの会に持つ。私の知っていた大阪はもうないけれど、また、短歌仲間によって新しい大阪に出会えた。新しい世界が広がった。私にとつて忘年会はそれを実感する年に一度の祭りだ。残念ながら今年の忘年会はなくなってしまったけれど、世の中が落ち着けばまた梅田に集まりたい。みんなに会いたいと切に願う。

最後になりましたが、できましたら会費はお釣りの出ないよう、来年に向けてご準備よろしくお願ひします。



持ち寄りのお品

モロツフのプリン、都路里の抹茶ムース、おいしい。



持ち寄りのお品
高級鯖缶

くろわさん、 中学生になる

制服のリボンに作法のありしこと一から吾子に伝える儀式
中庭の鳳尾松わたしの知っているサイズより二回りほどでかい
つやつやと禿げ上がる学年主任に会釈をすればかつての後輩
平成元年度卒業記念碑の右にひと群橘の咲く
数学はわけわかんないわたしもわけわかんなかったきみと同じで
新しきあだ名のついて少し怒る吾子よわたしにあだ名はなかった
受けとめるクロワッサンのとんがりのごとまるやかな反抗ならば

ゆうか
ともえ夕夏
@croissant_hey_z



ひよっとこ名物「だし巻き」

遡行

白亜紀の地層が見える恐竜が恐竜を食う時代だったよ
まっすぐに雲間からさすひらひらの銀杏ときおり落ちかかる道
ジュラ紀にも化石はあった……つまづいて転んだやつもいたんだろうね
地形すら違うんだからこの星に当時いなかった者たちばかり
物陰にアノマロカリス本当は違う名前と呼ばれたかった
その虫は夜中に光る言葉には頼らず進むトーチの隊伍
大方は暗い海域潜るほど浮上してゆく太古の海へ

どうなしゃくふう
堂那灼風
@shakufur



いなりずし

火を継ぐ

生涯に数え切れない乾杯のその一回を星の散る音
初手カシスオレンジ やがて「あざとい」の称号も錆びてゆくものなれば
どこへ行ってもいいはずだった立食の海を磁石のように引き合う
来歴を披露しあつてそれからは蠟燭の火を継ぎゆくリレー
花というよりみつしりと蔦わたしたち宴席の壁にもたれて
新幹線、はいね。今日のほろ酔いを置き去りにする速度で夜を
終わっても胸のうたげは続くからいつでも花を掲げておいで

つじさとし
辻聡之
@stsuji1983



31 アイスクリーム

控えめな冬

いつもより少し控えめにひかる冬だろうあなたが過ごす都会は
きらめきのきもない無人の駅前の深い静寂しじまに眠る自転車
会うことによほどの理由が必要でよほどになれないみたいふたりは
クリスマスも忘年会もない世界 いつかもらったピアスと生きる
県境をかるがる超えてゆく文字で文字のあなたをまた抱きしめる
マスク姿すら見られずに過ぎ去った日々を今年をもう忘れたい
真夜中のひとりパーティー紺色のほろよいが生むさみしい銀河

ちはう
千原こはぎ
@kohagi_tw



ダブルベ・ボレロのアイア
シエッケ

現代秘めモノガタリ

王子など待つ気はないわ毒リンゴ骨の髓まで消化するべし
海底にいる魔女はそう人魚姫だった王子を殺した女
12時になって魔法が解けたって私は私君は違うの？
キスだけで起きるわけない眠り姫呼ぶなら呼んでうちの母親
月を見て泣くかぐや姫こちらとて帰宅したくて泣く社畜姫
髪の毛を切った職場のラプンツェル別に意味など聞かないけれど
もし君が私を美女と言うのなら野獣のように愛してみせて

にいづま
新妻 ネットラ
@NTR_s2s2



みんなでワインを飲みたいの
う！

ちゅ〜る七景

目の色が変わったけれどこの筒はスティックコーヒー ちゅ〜るではない
舌先がまた見えている陽を含みちゅ〜ると同じ毛色の間から
相応のカロリ―あるやちゅ〜ると聞いて駆け寄る猫は7キロ
ちゅ〜るよりカリカリが好き差し出した人差し指をぶいと躲して
ちゅ〜るなら通せるのみどその小さき体は何度手術に耐えた
イノコヅチつけつけ浮き世を渡りなばちゅ〜るの味などついぞ知らずに
虎になる日よまだ来るな食べ終えしちゅ〜るの袋に噛み跡あまた

なうほう
榎原 もか
@kiharaneko



黒はんぺんフライ

百足忌

十二月わたしが踏んだ百足忌のような南の風降りそそぐ
斑のように簾のように千切れゆく雲の固まり熱い師走に
ときおりは歩みを止める痛みあり今日は右膝すこし内側
このうえなく冷える朝へと昇る陽の布団いまだに昨日を含む
湯上がりの火照り逃げゆき左掌に十五の節のあるを数える
紙を漉くような手つきで髪を梳く明日をここへ引き寄せるため
早成りのワインの酔いのほどほどのごとく今年のそれもまたよし

なかむうせいじ
中村 成志
@nakam8



土鍋で焼いたパンを土鍋ごと

沈没船

イルミネーションのひかりの切れていた電球だけが夜と思える
この地図は偽物らしい コロンブス、水先案内人は誰かな
謎謎を三問出して秒針の音が聞こえて眠れないから
クレパスを音で表現するくせにハミングでしか話せない人
床ずれをするほど放置された気で横たわる手を少しつねった
確かめるいつか死ぬとき骨になるわたしの骨に似ている背骨
ウクレレの音で目覚めるウクレレはハワイの言葉 ノミ、跳びはねた

ながい
長井 めも
@longmemo_tanka



丸鶏の塩釜焼き

身近なできごと

早朝の霧たちこめる散歩道不思議の国へ誘われるよう
検索で現れいでたご近所の居心地のいい小さなパン屋
見慣れない土地を景色を繰り返し歩けばやがてふるさとになる
私なのに私ではない何者が不審な広告つぶやき続ける
コーヒーをキャンバスにして魔法のように店主が描くニコちゃんマーク
町内の小さなお知らせ絶え間なく回覧板は小さな輪廻
朝の道で奥様方は会議をし夜は主人が家路を急ぐ

にう



手作りスイーツポテト！召し上がれ～

夢枕れむ、 パジャマパーティー

れむのパジャマ、キュートなんです。このまんま死装束にしちやいたいほど
ぬいぐるみのためきのおなかを叩いてる人差し指はドラムスティック
ほろよいの空き缶みたいなの明るさでからから笑うりが好きだよ
ふくらんだり、しぼんだり、ちったり 風船の前世はたぶん花だとおも
あしびきのヤマダ電機のBGMみたいに続くガールズトーク
真夜中の天気予報で流れてるBGMを睡眠用に
目覚めたら部屋がカラフルで、これはもう、ゆめかわいいよ、ゆめかわいい

にしじゅんこ
西淳子
@Jacky244Ray



かすたどん

帰りの歌／行き之歌

小糠雨この世の解せぬこととしてすべての遺書は生前に書く
さざんがく苦は七重に押し寄せてあまり水際を歩いてはだめ
小規模な催しだった背のびしてあなたが細く開く天窓
レトルトのカレーの封を開けるのは僕だと買ったときにあなたは
声で そう、いちばん安い方法でどうか信じてもらおうとした
思い出す日々にも非ず缶かんにミヤコワスレという名のコーヒー
やわらかくなるまで煮るとあるからに なるまでを煮る 祈りではない

にしむら あさう
西村 曜
@nsmrakira



ミロ

正気パンケーキ

夜の間にひらきし百合の蕊を切りきょうの窓口業務を始む
アクリル板の仕切りきらきらおおかたの本年度予算つかわれていて
買わざりし喧嘩おもえば埼玉の半端な空に星はまたたく
うす墨の指定を受けしプリンタは喪中葉書をすべらかに刷る
やや弱きWiFiたぐり九分割のZoom画面に猫を映せり
霜月のあさがおの青どうすれば正気を保っていられるでしょう
パンケーキのふちをこぼれるシロップの 冬のふとんに目はとじている

ぬまじり こ
沼尻 つた子
@numatsuta



新三共胃腸薬



つづきまして

なかやまなな
@YpfoDgermoWqDS

みなさん、こんばんは。なかやまななです。いや、みなさんのように話せるかどうか分からないので、話すことを考えてみようと思っただけですが、考えることを忘れてしまっていました。で、どうしようかなってことで飲んでます。みなさん、飲んでますか。ね、遠くの席でじゃこさんが手を振ってくれています。ありがとうございます。江戸さんのほうが大きく振ってくれていることは内緒にしておきましょう。

今日はいつもと会場が違いますけど、今回で多分、四回目の参加です。参加？

乱入かな。乱入です。「プロ野球珍プレー好プレー」なんかで映る、球場に入ってくる犬、あんな感じです。いやいや学校の校庭で走る犬やなくて。球場って野球してまっせという空間で、それが短歌してまっせっていう、つまり、みなさん、それぞれ違う歌を作りはるけど、短歌っていう共通項があるやないですか。というか「短歌な」っていうてあるし。そこに短歌せえへんのがおる。ここにおつてええんかなって未だに思うですよ。あ、龍翔さん、さみしい顔せんという。龍翔さんに会いに来ているんやから！
そう、龍翔さんに会いに来ています。なんと同じ誕生日なんです。

すよ。って誰が興味あんねん。

あ、それでおつてもええんかなって不安になるから初参加のときからスタッフをやっている。だけど、前回はスタッフやるいうたのに、まあまあ飲んできたから全く仕事せんね。え、いつも飲んでるって？

額すぎですよ。泳二さん。で、スタッフやってて面白いと思うんは、みんなスタッフちゃうやらかつてくらしい段取りがいい。あの狭い受付ホールをスマートに抜けて、フリーペーパー置き場の確認、荷物置き、名札の作成。どの過程でもほとんど混まない。ビュッフェのときぐらいじゃないですか。混むの。あ、デザートが追加されたみたいです。取りに行く方は行ってください。というたら御殿山みなみがダッシュで行きましたね。

わずか二、三時間。フリペ取って、食べ物飲み物取って、ビンゴやっていたら、あつという間。あんまり覚えてない会話も何故かじんわり沁みしてくる。不思議。さっき不安になることがあるっていいましたが、不安のまま帰ることがない。おつてええねんって思わせてくれる。「ぼうねん」やのうて「ええねん」。え、「ねん」しか合っていないって。まあ、そのダメ出しの続きは二次会で。



わさびの葉 茎を刻んだ涙香

サーキュレーター ちゃん

目が合えばすぐ目をそらすゆるやかにかきまわされてきみからの風
仰ぎ見る時がいちばん長いつてサーキュレーターも疲れませんか
きみのまねしてみただよゆつくりと首をまわせば夕陽がみえた
上向いて歩けない日は上向くはサーキュレーターが代わってくれる
あたたかな空気はうえにありますかどかないからとつてください
ゆつくりと肩から空を仰いだらぼくにも風が採れるだろうか
向きなおる前に一瞬うつむいたふちのひかりをぼくは知ってる

ネコノカナエ
@nekonokanae_uta



明けがらす

記憶

忘れたい人がいるから店を出る今は聴きたくない『香水』を
年末の歌番組はときに罪あなたがらつく画面の中に
カラオケを断るスタンブさえ冷めた目で見るだろう彼女のことを
もう夢にさえ出てこない人なのにホラ嗅覚だつて言うもんね、記憶
来年の手帳に書いた記念日がフリクシオンなら良かったのにね
マーブルの模様が胸にあるけれど嫉妬じゃないし未練でもない
忘れたくなかった人が口ずさむ『香水』だから好きだったんだ

こゆ子
のま添野
@kkjsk31



ビールに負けぬ新ジャンルを
飲み比べ用に各種

冬の水脈

カーテンは光の汀ぼっかりと不在の席へコーヒーが来る
潮騒と鎖を聞きまちがえて来たあなたの道にあなたの灯り
わたしだから話してくれたのだとわかる窓には雪がしきりに過ぎる
それはまたとても小さなまばたきで前からずっと泣きたかったね
満たされた光の中で窒息を／体は世界を維持する袋
髪に眼に肌記憶は降りながら 手放すのならすべてください
手を振って遠くあなたも点描のひとつとなって駅に降る雪

ふうきはぎ
@uom_z3



持ち寄りのお品
七田（愛山か雄町）

熱い吐息

ひととせのことさらはやくすぎ去るをきょうのかげたちあしたへとふけ
ひとけなき新幹線にシウマイの弁当ひろげひとり西へと
明日知れぬ身なればこそたえきれず濃厚の接触をする
台風を越えてきたのか野菜たち八百屋の前の夏の夕ぐれ
ふうふうとマスクの息のあたたかく仮面舞踏会より帰宅する我
やきいもの黄のやわらかくしつとりとねっとり甘く舌に溶けゆく
包丁を持てば始まる酒の席 半年ぶりに友人が来る

かえらしずえ
箆地静恵
@Ymcx6rhvjEZgwg



持ち寄りのお品
茨城県のかんそいも。その場で網焼きにする。

12月

みかんには労働がない くらくらするくらい艶やかなのが揃って
パーカーの紐をひっぱる ひっぱると大学にいけない頃の匂い
海へ 冬の風物詩を見にいきますか 対戦相手のいないルートで
リモコンがいらなくなる時代になるよ、もうすぐ 指が退屈してる
わたしが次に生まれる場所はどこだろう 宴会場のある旅館とか
あつという間に年末はくる お寺にも イワトビペンギンの飼育員にも
連絡のとれた人と会うくらいで晴れわたっていくよ 渋滞へ

はだし
@hadashinomanmay



持ち寄りのお品
温かいほうじ茶

数ミリ縮む

善良な緩衝材に刃を立てて最期の息を吐かせて捨てる
これが人だったらなんて裁断機持ち手に伝う紙の重なり
どこまでがわたしなんだか曖昧だシュレッダーを通った後は
こっそりと大事に飼ってたハムスター口に出したら居なくなつたよ
眠らずにいれば今日は終わらない深夜32時へ遊泳
暗闇を摘み取るように手を伸ばす蛍光灯は息を潜めて
身の丈に合った生活したでしょう数ミリ縮むわたしはどこへ

のにし
@no_nishi



持ち寄りのお品
ジャーマンポテト。ジャガイモは大きめで！

同窓会

会場はここだったはず見覚えのない人たちの中で棒立ち
無遠慮に互いの顔を凝視して浮き上がってきた十七歳たち
制服の日なたの匂い甦える足音かばんスカートの裾
ここまでの道すじすべて正解で答え合わせをみんなで避ける
あの頃のとげとげ気分はいつの間に消えていたのか談笑してる
明日からまたばらばらのわたし達だから今だけ半音上げて
また明日みたいにも別れ改札を通り過ぎると真顔にもどる

ふうみり
@Am34Tt



炊き込みご飯をゴルフボールぐ
らいのおにぎりにして

たのしい毎日

ルミネエストにいる彼氏は偉いなほんとにたのしそだから偉いな
自販機が僕の毎日決めており僕はそのこと受け入れている
バイパスの牛丼屋にも朝が来て僕たち以外は戻っていった
見せるほどでもないものを撮りもせぬダミーカメラ ビンゴの景品
持つ君が持たない僕を持っていてそのどっちもが通信制限
石楠花が玄関先から伸びている花卉の下によくある街だね
ネットフリにおすすめされた映画みるおもしろかったです人は夜寝る

ほいほいこーろー
回回鍋
@slope_at_minato



ハートチップル

なんでもない日の ために

直接は聞けず課長の会話から拾う断片「外 がこわ い」
最後って在宅勤務になる前にご飯連れてってくれたんだって
関さんから《お世話になりました。》と届く紙石鹸の薄桜色
ふた撫でて泡になっちゃうはかなさで関さんのこと忘れるの やだな
ハッピーバースデーニコラス分洗う手になんでもない日の虹はうまれる
行間が雨に擬態をするようでとてもみじかい手紙を送る
またいつか会える日のため全休符みたいな帽子にうさぎを連れて

ましまゆり
@canary_bird



芋焼酎山ねこ。お湯割りどうぞ☆

なめらかな一区切り

電球の木に巻いてあるようなの名をド忘れたまま暮れる年
大掃除できればしよ春服を春前に出すためにしまおう
ああそうだ、イルミネーション。「年末はどーしゃんかね」と聞かれて灯る
この時期はオペレーターの増員で承ってくれる神様
賽銭も電子マネーになるのかな 五円は和同開珎みたい
劇的な朝はこないね新しいなんて聞かなきゃ知らなかったよ
本年も生かされてゆく、もう見ない番組だけど続いてほしい

まさかれいど
榊 枯井戸
@kareta_id



ねるねるねるね

乾杯の手は すれちがうまま

パーティーをしようじゃないか公園の桜の花も今が見ごろさ
初夏の行楽日和どこへいこ京都のバスはいつも満員
市松のたなびく空に万国旗ピストル銃が微かに聞こえ
盆踊り笛の音やめば秋祭り花火に太鼓うたげは続く
ひととせのうみを吐き出し年忘れ乾杯の手はすれちがうまま
見渡せば花も紅葉もないわけでひとり暮らしの部屋に空き缶
なにもかも忘れちまったかなしみも明日の朝には忘れてい

みそのみそ
@mis0no



水曜日のネコ (クラフトビール)

スルタンを 待ちながら

後宮の碧いタイルは空に似て空に非る冷たさを持つ
かすずけば麝香 武官に下賜された花の名を持つ踊り娘たちは
また添い寝の女が替わり金塊で積木遊びをする皇子様
薄絹でわざと触れゆく薔薇の花摘まれる前に落ちてしまえよ
真心を閉じ籠めたまま果てる夜は心に真白き鳥を描いた
勝者から勝者に継がれる歴史書に月影射して紙魚となりゆく
地平から逃げ出す明けの明星を捕らえよ 君はまだ帰らない

みかげ
深影コトハ
@cotoha_mikage



知育菓子の詰め合わせ。オトナの本気楽しいよ！

ねえうし

子年らしいことなど何もなく終わる (いや子年らしいことって何だ)
かたむいてしまつてひどい エクレアのクリームが朝日よりまぶしい
恋じゃなく愛ですなんて言っている人にアンデスメロンをあげます
わたしはよっぽどのことでもなければ怒らないって言ってるんだろが
こんな世界誰が想像しましたか今年の抱負を覚えてますか
来年は丑年らしく、ええつとその、丑年らしく笑つていよう
趣味でやつてること全部ヘタで楽しいな！三十一音すら守れない(ω)

みいと
御糸さち
@MEATsachi



ええハム

インターネット

知らないと不安で知れば不安です酸味が弱いコーヒーください
なかったことにはできないみたい助手席に荷物置かないのは癖ですか
始まれば終わってしまうのがいいねよくないねって言い合う真夜中
きみの町で雨が降るとき目を閉じて雨の音など想つてもみる
動かしても動かないものわかつてるころのなかはみえないもんね
かなしみをインターネットに吸寄せたら吸うわ吸うわで笑ってしまった
きみのこえが疲れた夜を震わせて生きているってこういうことか

まうだあおあお
街田青々
@bluesuqreme



源氏パイのチョコのやつ (おいしい)

その好きは一生賭ける価値あるの？夜勤明けのしなびた心に
勝手にさホームタウンと呼んでいたアキバの街はいつしか遠く
仮眠では覚めぬまなこで見える空は行楽日和という帰り道
リモートで大祭神事拝みつつかみさまいるのいないのどこよ
医療危機言挙げしてる中でも面会人は横柄なまま
身なりでも美醜でもなく口元にマスクしてるか監視する車内
来年の望み語らう連中をうらやみながら家賃を払う

みやぎみずは
宮木水葉
@miyagi_mizuha



地元の地酒を、と言いたいが最近製造終了でがっかり。

ごはんができたよ

男の子ゆえに興味が湧いただけご飯を作る気になっただけ
透明になるまで米を研いでいく涅槃に至るまで研いでいく
夕暮れの光に米のとき汁はあわいピンクのつめたい血潮
しじみから出る青灰の成分は仰ぎ見てきた山陰の空
戯れに「まずいまずい」と言い放つ父の言葉の傷痕がこれ
食べること知ることどれも生きること世界すべてに命のたねが
ふと思いつくキッチンにわくわくがあった自分を 伸びたどん兵衛

みやじま
宮嶋いつく
@miyazima_izq



島根県の地酒をいろいろと



ここは大阪

しまだ
嶋田さくら

@sakurako304

お酒を飲むか飲まないか飲めないか、いろんな人がいると思う
んだけど、「短歌な忘年会」に参加するの、そういうことはど
うでもいい。第一、企画者の龍翔さんはお酒が飲めない。今じゃ、
関西を代表する短歌プロデューサーと呼び声の高い牛隆佑さんも、
よく飲み会や懇親会の幹事をすすんでやってくれるけれど、飲め
ない。わたしはいつも、体質的にお酒が飲めない人がなぜ飲み会
の企画をしてくれるのか、不思議で仕方がない。なぜなら、しら
ふの人から見れば、酔っ払いほど面倒くさい人種はいないと思う
から。この二人はただのいい人たちなのか。

わたしはお酒が好きだ。酔いやすく、次の日の二日酔いのこと
を思うとたくさんは飲めない。「生中三杯まで」は、わたしが安全
に大阪から滋賀へ帰るため、じゃこさんとした約束で、できるだ
け守るようにしている。そう、大阪。短歌な忘年会は大阪で開
催されてきた。そして、会場はいつも駅からけっこう離れたところ
ろにあった。なぜかという、大人数を収容できて、宴会プラン
に飲み放題がついていて、気の利いたおいしいメニューがあつて、
(チェーンの居酒屋ではなく)なおかつリーズナブルなお店という
のは、駅近には存在しない。こういうお店を探すのは大変だ。駅

から離れていたって仕方がない。だけど、聞いてほしい。方向音
痴にとつては、そこへたどり着けるかどうかは、死活問題なのだ。
わたしの場合、仕事の都合で、毎回開始時間に間に合って行くこ
とができず、たった一人でスマホを片手に、早く着きたい気持ち
で焦っているし、夜の大阪の街はちかちか眩しくてくらくらする
し、スマホの地図は、いつの間にか目的地ではないところを表示
しているし、やむなく、その辺で看板をもっているお兄さんや、
コンビ二のお姉さんを質問攻めにして、ようやく、ようやく、た
どり着く。もうすでにへとへとである。(到着できた嬉しさに)半
泣きでとりあえず、見知った顔の人たちに声をかけて心を落ち着
かせてから、初めて出会う人たちに挨拶をする。

歌人はなぜか人見知りで控えめな人が多い。だけど、わたしが
行くころにはほとんどよくお酒が入って、みんなほころんだ笑顔を見
せてくれる。わたしが短歌な忘年会を好きな理由は、このシャ
イな歌人たちの、ほんの少しゆるんだガードの下に、ちらっと見
せてくれる本音を聞くことができるからだ。混沌とした世界に生
きていて、つらい事の方が多いけれど、人って愛おしいなと思え
る瞬間だ。ということで、龍翔さんいつも貴重な場と時間をあり
がとう。

酔う人も酔わない人もみんないてここは大阪 かがやく夜だ

幸ひ

かなしくてお金はつかふつかふほどにお金なくなることさびしゅう
とろさばの脂を嘗めてその口をウイスキーに漱ぐ幸とおもへる
予報どほりの雨は降りつつまだ暗い昼の一時を過ぎて目覚めつ
かんがへが深まるまへにおもふから恋はおのれのことばかりおもふ
ものをしへあふ窓辺には午後の陽がおよびつつありかかはりあはず
向かひの席にひとの食べあるトーストは夢のやうに見ゆそのやはらかさ
うるさいこと言ふ親あらぬ幸ひをさいはひと長くおもひをりしが

やました しょう
山下 翔
@Yamashio_

持ち寄りの
お品

ウイスキー

いつか言葉に

落ちてゆく涙は月の湖になるため色を持たず生まれる
悲しみを堪えて語る人の眼を画面越しから見守っている
スマホから繋がる世界へ送り出すほんの少しの小さな思い
それぞれに思いを抱え言えなくてマスクが今はちょっと優しい
きみは何処？羽音を優しく纏わせて僕の心を包んでいたのに
手離したものがどこかで咲くならばこの手を空に預けてもいい
雪解けの頃には言葉になるだろう愚痴も涙も笑顔も愛も

やえもり
八重森 さくら。
@yaesaku0329h2

持ち寄りの
お品

個包装のスムークチーズを配り
たいです。

DAYS

何もなくわすれてしまいたい日に訃報がひとつひとつつまる
どうしても廻したければ廻してときどき遠くでしかつてやるから
旅に病んだ人かけ廻る秋津洲見渡すかぎりの枯野だつた
炎天下葬列を追ふひともなく汗のにほひに蠅がしたがふ
掌で灰となります短冊はお空につられて雨をふらす
板前はつれないゴトー待ちながら鶏もも肉をブツ切りにする
あゝうまく言えないけれどよこはまのあゝ狂ふ凶は宝物だよ

もより
最 寄 ぶ ≠
@XavierCohen

持ち寄りの
お品

スーパーの野菜売り場の石焼き
芋がべらぼうにうまい

にぎわいに行かず

在り方を忘れてしまふ ちよつとした影に亡びを見ていたことも
人の手で造られた海、いや港 少しずつ何かがずれていく
一二塁間だけ「塁」をちゃんと言うことだよこの国の難しさ
光らせるために裸にさせられたイチヨウが並んでいる難波まで
にぎわいにまでは行かずにそのへんで買った根菜と鍋の絵葉書
加湿器が地面の底から湯を沸かすように力んでいて そばにいる
南港に立ちながら海を 立ちながら自分の輪郭を思い出す

むしたけかずとし
虫 武 一 俊
@mushitake

持ち寄りの
お品

ポテサラかな。パーティーであ
ると安心感ある

家族のごはん

スムージー納豆ご飯ホットサンド時間もバラバラ日曜日の朝
ワクワクとちよつと背のびをしている子靴の形のクリームソーダ
愛情は隠し味にはなりませんうちはソースとケチャップです
今晩は特別感を演出します手抜きのはずのホットプレート
覚えたての息子が作る卵焼き私の味とは違うよるごはん
毎秋に父から届く鮭一尾受け継ぐいくら元気なうちに
これはカレーこれはそうめん実家では出番を終えたうつわが眠る

リングリンデおかあさん
@ringrindehaha



日本酒

はりぼての月

ベランダの虫コナーズの揺れてゐる音で知りたる冬のおとづれ
真夜中のとびだし坊やの黒々とした眼のごとく寂しさはあり
わたくしにひかりもかげも足りなくて渋き紅茶をすすりてゐたり
眠ることさへもできないわたくしをやさしく照らすはりぼての月
寂しさを塗りつぶせずにある夜の満月に刺すパレットナイフ
抱きまくら抱かずに眠るいつまでも付き従つてゐると思ふな
とりあへず目を閉ぢなさいといふ神のお告げは母のこゑに似てゐる

りゅうしょう
龍翔
@oppizuntsuan



生ハムの原木

ハムケツは正義

真つ白なきみが来た夏僕たちに笑顔が増えてよかつたよかつた
逃げ出した夏休み明け押し入れに隠れていたね匂いでわかつた
あの歌を聞いていた夜きみにだけ漏らした気持ちはホントにホント
涙して弱音を吐けばモグモグときみはほつべに隠してくれた
大福のように眠って伸びをして無垢な瞳で僕を見ないで
大好きなひまわりの種ひとつだけ取つてあるんだ小瓶に入れて
知つてるよハムケツ飛び出すドンダのお家に隠した愛の夢とか

ゆりこ
@b7282e_akaneiro



ビールと湯葉刺し

ふひし時のみ イケボなる人

朗々と美声で語る人に思ふやうやう酔ひが回りし頃と
酒飲めば汝の声は澄み渡り響きに酔ひし吾がありけり
聞き役に徹してをれば「ほれ飲め」と透けたる声で割らぬ焼酎
しらふとは比にならぬほどの美しさ原酒をあつらふ汝の声は
吾もはや気の狂るるや恋なるや酔ひし汝の声を愛しと
酔ひつづれ眠ることを許されし吾が耳元に甘き玉音
鈍痛の走る折々思ひ出づ「気いつけてな」の玉の調べを

ゆうせい
悠正
@tanka_renpai



あたりめ、日本酒「奥の松」

『うたげ～短歌な大忘年会 2020 in the zine』にご参加のみなさま、本当にありがとうございます。全世界から96名もの方に短歌やエッセイをご投稿いただきました。おかげさまでとても読みごたえのあるzineに—いえ、盛大な忘年会になりました。Zoom歌会も楽しいですが、やはり直接顔を見合わせて、わちゃわちゃと歌会をしたり二次会をしたりするのが恋しいですね。またいつかみなさまと元気にお会いできますように！ 追伸。今年もこうして短歌な大忘年会ができました。こはぎさん、本当にありがとうございました。(龍翔)

「今年は短歌な大忘年会、無理だろうなあ…代わりに去年作ったみたいなお冊子で忘年会代わりに盛り上げられないかなあ…」ちょうどそんなことを考えていたとき、全く同じ内容で龍翔さんから制作協力依頼のDMが届きました。なにこの以心伝心！というわけで忘年会企画「うたげ」が始動しました。たくさんの方にご参加いただき、エッセイありお持ち寄りありの賑やかな誌面になったかと思えます。年末年始にゆっくりと楽しんでいただけたら幸いです。そしていつかまた、直接集まって短歌な話でわいわい盛り上げられますように…！(千原こはぎ)



増える歌集より

総合的に判断したということは部分的には何も見てない
男ってみんな単純 心臓を握り潰せばすぐに死ぬから
借金は悪いことではありません(あとで苦しむだけで済みます)
これはペンです(があなたを刺し殺すための道具として使えます)
人生で迷子になった原因はマインドフルネス本の洪水
ささやかな幸せなのでもし君が触れてしまえば壊れるだろう
あまりにも疲れていると人に優しくできなくて疲れたくない

ろくじょう
六条くるる
@rockjoe_kai



ローストビーフ

サイン下さい

存在を確認された宴では架空の人と並んで笑う
後悔は2円借しんで断った2時間前のレジ袋とか
光らせた湖を見るこんな日に愛とは何か考えている
すみませんサイン下さい歌人しかいない世界でジョッキ掲げて
生ハムを剥がせないのも可笑しくて突っ込み待ちの列に並んだ
落とし穴にまんまとはまり見えているホテルに着けない新大阪は
人生のまさかの坂を世界中同時に登るまだまだ登る

ルイドリツコ
@rittanca



風来坊の手羽先

二〇二〇年 冬

紅梅の枝が網目のようできて冬は二月のことだと思ふ
今年度中止になった合宿の写真はすでに懐かしい距離
エントリースーツに写す古傷と食品サンプルめいたガクチカ
紅富士を収めたフィルム きみはまだ蒲団の中で死んでいるのか
なんとなく遊んだガチャでなんとなくシークレットが当たってしまう
ジョナサンの限定パフェを食べ終えてここは来月跡地になるの
何もない田舎だけれど彗星に見えた飛行機雲だけは好き

りん2
@rnc_ssk



ミスドの詰め合わせ

ご参加
いただいた
皆さん 
(敬称略)

麻倉ゆえ	涸れ井戸	たかはしりおこ	ふうみうり
あの井	北大路京介	滝藤青瀬	回鍋鍋
尺崎武	草凧沙羅	立葵	ましまゆり
天野うずめ	久保哲也	田中翠香	榊枯井戸
雨虎俊寛	黒須紗里菜	谷じゃこ	街田青々
新棚のい	香村かな	田村隆陸	御糸さち
有村桔梗	こまこ	千原こはぎ	深影コトハ
杏藤ミレイ	さとうはな	辻聡之	みそのみそ
五十子尚夏	佐藤水魚	堂那灼風	宮木水葉
魚住蓮奈	サラダビートル	ともえ夕夏	宮嶋いつく
牛隆佑	茂巴あち	長井めも	虫武一俊
宇祖田都子	柴田 瞳	中村成志	最寄 ㇿ
宇津つよし	島崎みとん	榎原もか	八重森さくら。
泳二	嶋田さくらこ	新妻ネトラ	山下翔
榎本ユミ	清水晴架	にう	悠正
えんどうけいこ	西鎮	西淳子	ゆりこ
大橋春人	雀來豆、	西村曜	龍翔
岡田奈紀佐	土良唯菜	沼尻つた子	リングリンデおかあさん
岡本雄矢	鈴木智子	ネコノカナエ	りん2
小川けいと	すずめ	野添まゆ子	ルイドリツコ
小倉るい	千仗千紘	のにし	六条くるる
折原咲樹	ソウシ	はだし	
貝澤駿一	蒼音	笛地静恵	
@kaizen_nagoya	たえなかず	ふくらはぎ	

・エッセイ・

嶋田さくらこ／谷じゃこ／辻聡之／なかやまなな／福島多喜／松城ゆき

短歌な大忘年会 2020 in the zine うたげ 発行：2020.12.10

短歌・エッセイ：ご寄稿いただいた皆さん 企画・運営：龍翔・千原こはぎ 編集・制作：千原こはぎ